

特別
ワ 3
6798
1



索囊輻湊上卷

目次

- 一 餅袋 四有
- 一 和琴袋
- 一 上差袋 四有
- 一 筆袋
- 一 笠袋 四有
- 一 菜萁袋 四有
- 一 帶袋
- 一 藤網袋 四有
- 一 琵琶袋 四有
- 一 殿上筒袋
- 一 侍所筒袋
- 一 屠蘇袋
- 一 笙袋
- 一 笛袋
- 一 歌袋 四有
- 一 七宝袋
- 一 笏袋
- 一 弓袋 四有
- 一 弦袋 四有
- 一 柱袋 四有
- 一 宿物袋 四有
- 一 打力袋
- 一 鉢袋
- 一 花袋



橐囊輻湊

引書

小右記

元輔家集

枕草子

宇治拾遺

大鏡

江次第

尺素徃來

西宮記

臂鷹記

中外抄

淺深秘抄

山槻記

孝通口傳

岷江入楚

禁秘抄

禁腋秘抄

日中行車

侍中群要

康富記

後年繪卷物

福富繪草子

事物記原

峯記

吉口記

葉黃記

人車記

年中行事繪卷

蒼鷹秘傳記

鷹記

或鷹記

左記

三重口傳

中右記

古夏記

百練抄

平家物語

長秋記

春權現驗記

文安即位調度圖

好古小錄

平治物語	拾芥抄	詩	經	雜要抄
藻塩草	蔡邕独断	禮	記	親氏要覽
職人歌合傳	愚昧記	太宰流資財帳	玉	葉
公清公記	資治通鑑綱目	太宰画卷	伊勢神室因	
源礼記	土佐傳來因	新千載集	鷹三百首	
金葉集	名目抄	熊野神室因	盛衰記	
和漢三才圖會	勝	源氏物語	大成記	
經衡集	布衣記	伯家流神道決紙	春	記
北山抄	着聞集	物具裝束抄	春	神
高倉家秘記	陽竟記	武用弁畧	愚得隨筆	
政吏要畧	法然大行狀記	東	鑑	

餌袋

小右記長和五三四藏人頭資平公有撰政氣色
 雲上侍臣明日可見心花之黍 内列右近馬場
 可令来々南庇令右提餌袋破子資平可隨身
 手筥破子亦之大凡納珍菓種餌袋可宜仍

元輔家集なりつるものいかに乃をみはる
 るはしらのきりなりそののうみより
 ちぬらぬりよのいれくちらのむしてゆ
 いてやほまちりしてはしり
 立ちぬりみまも何れをま風の名はるる波のちり

枕草子

たふさふさてよき物

法師 くの物 家 ちふら物

宇治拾遺物語

昔阿のこの心より久しくとまじり
けりまゝいさくまひうさりきれ
餅袋
よ飯をも入る海へてまじり
聖徳寺日
頃のおもつらなさをとれまじり

大鏡 卷一

中々てまじり。一さきより
おれてまじり。てうら
つら

江次第 卷二 大饗

鷹飼引餅袋

尺素往来 鷹師不論貴賤蘇芳衫 綿帽子付

餅袋居鷹而騎馬

西宮記

才十六
福時五

城外

四谷持地因造酒横鷹入酒負馬大炊入餉櫃負馬
内藏入錢餅袋 如常

臂鷹記

一餅袋ノ装束鹿ノ夜目草 ヲスヘシ
黒革ニテ菟頭鳥頭 巾ヲクスヘシ
鳥頭ノキハヨリ榻ヲ卷也始所ハ左卷

ハ上ニナルハシ次ノハ右巻上ニ成ハシ
 餅袋ノ尻ニコノ皮ノ尻アルハシ鶏餅
 袋ハ右巻ノ片巻ナルハシ

金葉集

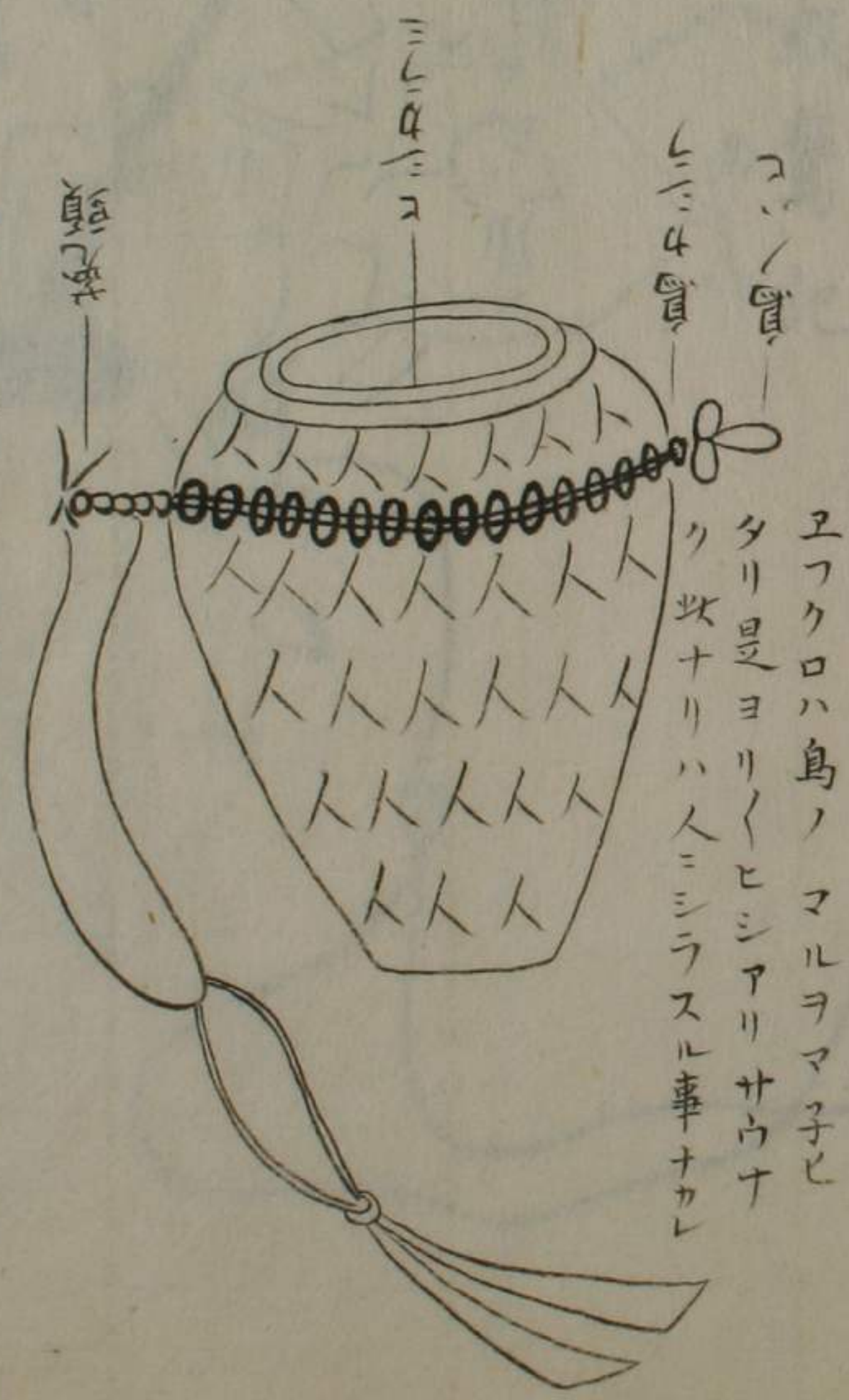
男心ハハアテ備テニすかりよんる後をさ
 うりけるえよる海をいんまよをうせきりけり
 もうきつけりつりさしりら
 橋井屋

乃きいんまの海をいんまよをうせきりけり
 東鑑十六建永元年二月十日櫻井五郎参入着餅直岳付餅袋於
 右腰居賜一羽於左午

うつ月物落落系の君下の巻画上詞書ニ云々此はこゑ

ぬらりたきそやのこゑも わびみまき

鷹記



コノ首
 ミシク首
 ミシクミコ
 鷹記
 ノヨメルニテ黒ヲツケロハスルニ
 ヒシカラミウカキカシラ。鳥ノカシラ
 ノ事ハ。クロカハニテモ。又フスヘ皮カ
 ニスヘシ
 又アラミシカオハフキスフシスヘシ

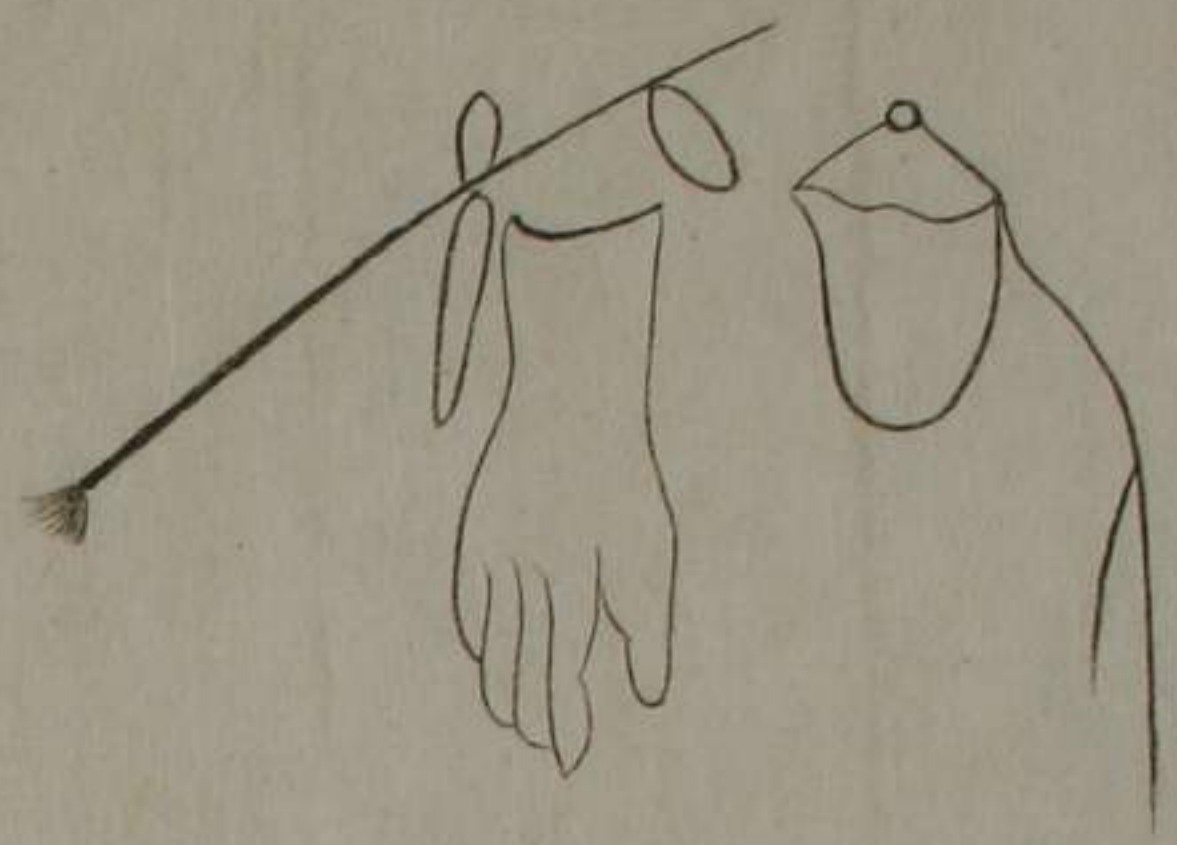


或鷹記



年中行夏画
卷物大卷

蒼鷹秘傳記



一工師 蒐頭鳥カシラノ寸法如是



鳥カシラヨリ 廿キキ一東四寸ニ

ホコニム子ユカケヲク、ルヤウ

鷹ヲホコニツナキテム子ニエカケヲユイマハシ
 くテヒシムスヒニシテ 餌成ヲム子ニカケテ
 シフク口トヨ コニシテホコヲヌカスシテ
 身寄ノ方ニ置ニエフクロユカケハウチニカラム
 ム子ハ別ニ置ナリ

琵琶袋

中外抄康治二年八月一日祖候御前御物語之後は仰云琵琶
 也而後朱雀院御暇ニは入袋タリケレハ宇治
 殿御覧シテアレハ争ト仰ラレケレハ取
 寄袋云々

又宝物袋ハミソイハノ錦オトヲ袋可用
 下品生縮ヲ縫袋テ入タルナリ

浅深秘抄一引出物琵琶ヲ取出サ入袋ヲ持以以
 早為面異彈耽昧者也頭方在右方

山槻記治承三十二 女房中宮殿上之方簾中は出

琵琶一面

袋錦

春宮大夫懷笏取之

同記治養二二三十三關白殿中將

師家
八才

有并賀事

令叅御前給令出給之取自簾中出

御琵琶

羽青地
錦袋

孝道口傳琵琶ノ袋モ筆ノヤウニテサシ入テエ
ヒタル下ハルハシキ琵琶ノスカタニテヒホ
カケタル畧シタルヤウナリハルハシキヒホ
ハヲニ取袋ノ十カサハハシスリサキエイタ
ルノコリ一尺四五寸ハカリアルハシヲハハンス
ノサキトクヒノツキメノホトニ袋ノアキノ
ハ一ノ弦ノ方ナルハシ筆ノ袋ハホソイ

トノ方ニテアキノアルハシ

岷江入楚

初音

御コト・モノ

同管絃器皆袋ニ納ル本儀ニ

琵琶袋

面或赤色浮
練綾裡唐綾

古今著聞集

管絃

永保三年七月十二日 主上殿下南殿巽角御座
テ藏人盛長取テ御琵琶牧馬ト召よぎ
コ則錦の袋小入テ叅アメリケリ

盛衰記經正叅仁和寺宮度

ソレ進ラセヨトテ 郎等有教ヲ召

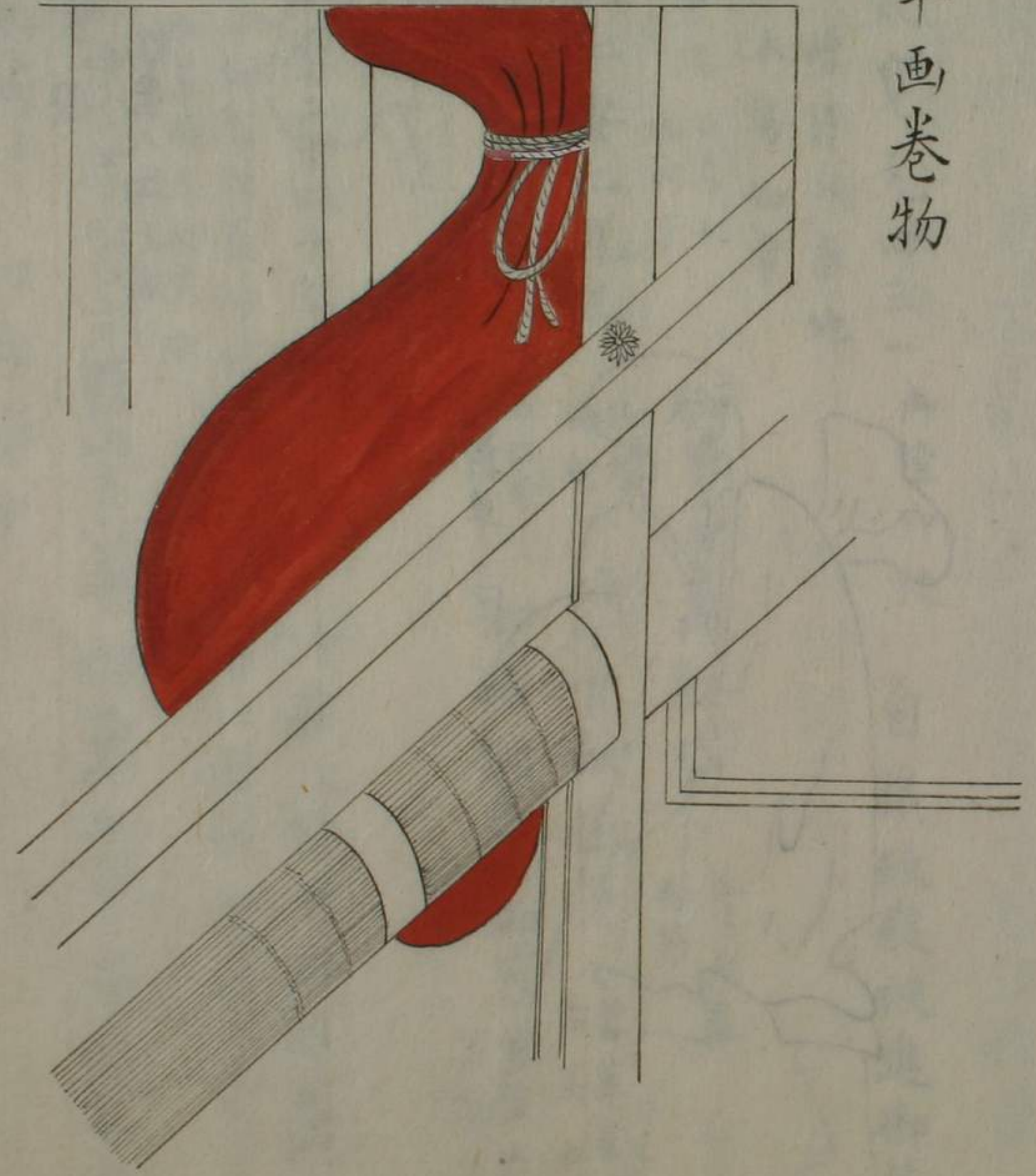
テ錦ノ袋ニ入タル音山ト云琵琶ヲ取出テ云々
 同記重衡酒宴付千壽伊王吏
 中將助音シ給ケル其後三度ハケテ女ニ賜
 女給テ宗茂ニユツル親者共五六人取渡
 テ止ス 纈纈ノ袋ニ入タル琵琶一面錦ノ
 袋ニ入タル琴一挺女ノ前ニ置タリ

陽龍記 寛元四年二月十六日今日一院初御幸畧

次堀河大納言女院於西方取琵琶納赤地

錦袋

後三年画卷物



年中行事大食圖

往來人物之圖

者 簪



福留草子



笏袋

葉黃記寬元四三一

所燈市被

自攝政殿被進御笏

入蒔繪篁入赤地
錦袋木笏如常

江次第才六

石清水
臨時祭

御笏篁蓋敷袋

其上置
御笏

人車記仁安二九三

御燈
御襖

次下官献御笏

篁蓋展袋
安其上

山梶記永曆二四六

上置御
笏也

御膳棚上置御笏

篁蓋敷御
笏囊共

峯記建曆二十二十七

賀茂臨時
祭

次藏人頭中將保通献御

笏

件御笏預置時筒下棚上取出自袋以袋敷御笏篁蓋其上置
御笏藏人給來取

吉口記正中三年二月三日罷向吉田亭頭左大弁資房朝臣叅

亞相御前云々 双弁尋中

一進笏事

進御笏之暇ハ御笏畏タル錦帟ヲ中ニ敷テ其上ニ御笏ヲ置之 件箱ヲ横ニ持云々

事物記原卷三 衣裘帶服部第十五笏袋

唐明皇雜錄曰故事皆搢笏於帶然後乘馬張九齡體羸不勝因設笏囊使人持之馬前遂以為常制梁職儀曰八坐尚昏以紫紵裹手板垂白絲於手如筆通志曰今僕射尚昏手板以紫皮裹之名曰笏袋 梁中世以來執笏者皆白筆^筆終頭以紫囊之此又似笏之設囊之始也

松蔭拾葉

伏見院御記正心元年二月廿二日禮服御覽

大袖小袖 御裳牙御笏_{入錦袋}

劔袋

三中口傳

贈物事

劔

細劔野劔共用之共可入袋 細劔者或平緒或不及之緒之時不入袋 平緒入袋間有之

左記 真言行者可指劔也入赤地錦袋如經袋

可持之或生禪人可持劔云々

中右記元永二年五二十八

中宮御産皇子降誕

御劔者内、從院

奉内者袋先、白織物也而縫袋事 五月有其

忌者仍用舊袋

赤地錦袋

長秋記保延元五十八

仁安寺供養

裏昏 舜 帰 徳

之間民部々經堂前戸 腰出自西戸取院 御料

大贈物件贈物儲丈柴 中法皇御劔 三孤東鞘蒔

雲二竜其又如氷自法藏は取出入白地錦袋

百練抄長寛二九二十七は調進八幡御劔平博士胤

喰之古袋有議は理御殿北方明經博士師元記傳

範兼御永範朝臣進勅文云々

古事記

神武天皇

神倭伊波礼毘古命倭忽為

遠延及御軍皆遠延而伏

遠延二字

此取熊野

之高倉下

此者人名

齋一横刀到於天神御子之伏

地而献之取云々

平家物語ア力千ノ錦ノ袋ニ入タル御夕千

モ千テマイリケリ

春日權現驗記

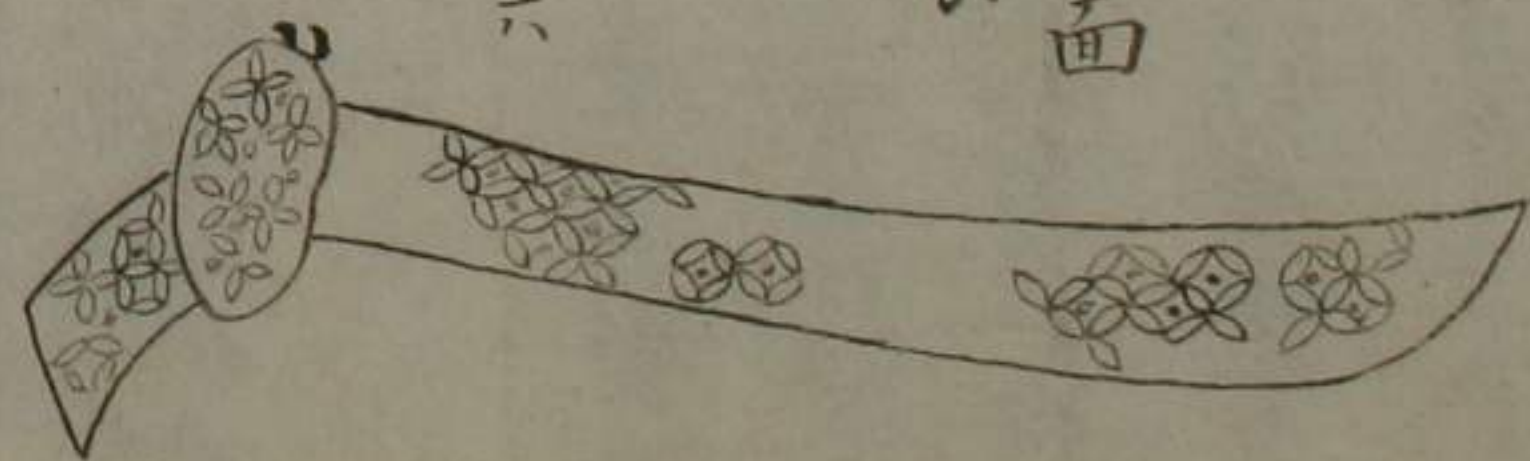
北朱文をクシ白キクヤウサ六ウラクロシトモ
モ白ホニエシ六
北処コフシエリ上朱スミフリ文スミ朱
スミコキモアリ



文安御即位太刀
調度図

袋 両面

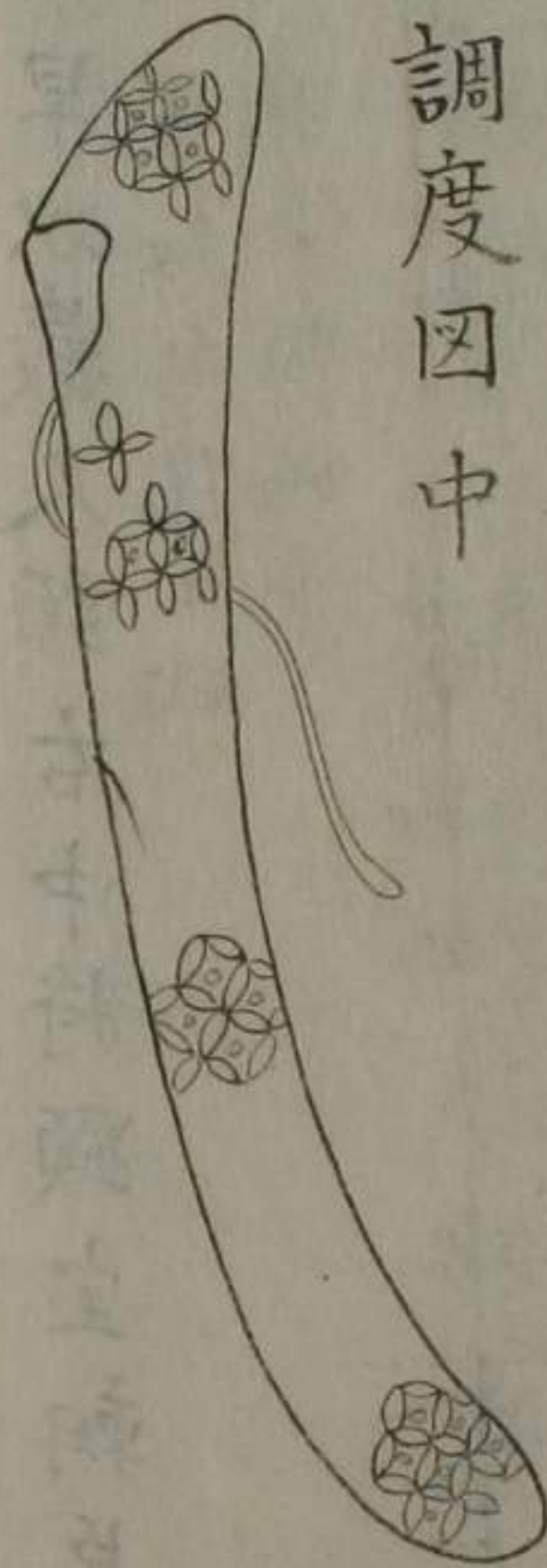
十六



類典即位調度図中

太刀袋

両面



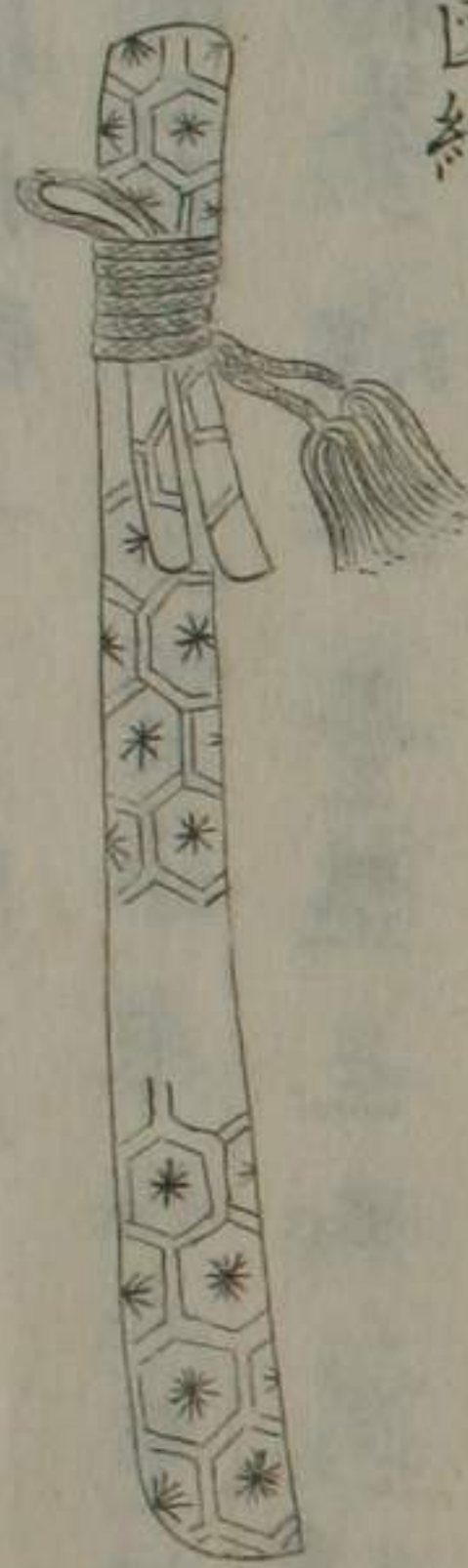
西行物語



和漢三才図繪

才子

兵器之部



たろふくら
林 青
木

和名太知不久路

袷衣也礼少儀所謂加夫禱子劔者是也

殿上簡袋

禁秘抄殿上

六間声

有小部主上覽殿上取也 御物忌 取下文

倚子覆

出納旦暮奉任之懸掉奏状

在上戸辺

和琴

置此 長押

臺盤 三脚

切臺盤 大臣

火櫃 二

自十月 至三月

至四月 撤之

田碁彈碁木盤在臺盤前

近代冬不置之 上古尋常置之

簡 有袋

禁腋秘抄奥ノ置 末ノ方ニフタヲ立殿上人

ノ名ヲ三段ニ誌タリ 上ハ四位中ハ五位

下ハ六位ナリ 名ノ下ニ紙ヲ押テ上日ヲ

付放紙ト云夜ハ袋ニ入昼ハフクロヲ

夕ニテ簡ノ下ニ置

日中行事殿上ノフタフウス 袋ニイル、ヲ

コノ後トノイスカタノ人ハ、カリナシ

御イシノヲイサホノマ、カケタルヲ

トテ御倚子ニヲホフ

侍中群要 日給之事

凡簡封了 ハ天 入袋倚立壁正月三日并御物

忌及曉封文不入袋以對壁立之諸節會行

幸還御之後封之入袋仁王會御読經御仏名

之間臨晚封之又入袋

弓袋

和名抄弟四

弓 劔具

弓袋

說文云鞞

音帳和名由美布久呂

弓衣也

枕草子 尔げるもの

ふく袋よ入るる弓矢たて

詩經鄭風

大叔于田

叔馬慢息 ○ 抑鬯弓忌

集註鬯弓囊也 与鞞同

字彙

鬯

又弓囊

与鞞同

詩經都人士之什

采縁

之子干狩言鞞其弓

詩經周頌清廟之什

時邁

載載干戈載橐弓矢

禮記月令

是月也。乃禮天子而御帶以弓鞞授以弓矢

註韞弓衣也

事物記原 弓袋

實錄曰器伏皆自有虞氏始韞鹿施弓袋通謂之三伏蓋大將備儀也左傳曰左橐韃右鞞鞞是也禮器曰武王允高倒載干戈包之以虎皮名之日建橐

註建說為鍵 兵四衣曰橐

平家物語 鵜河合戰之事

新大納言成親卿多田ノ藏人行綱ヲメシテ
先弓袋ノレウニトテ 白布五十ツ
ニヲクテラレタリ

禮記檀弓下

工尹高陽曰王事也子午弓而可勺手弓夕子射諸

射之斃一人鞞弓又及 註鞞弓衣也

詩經彫弓之什 彤弓

彤弓 昭兮受言橐之 註橐鞞

禮記檀弓下

赴車不載橐鞞

註橐甲衣鞞弓衣甲不入橐弓不入鞞亦再用也

同記少儀

器則執蓋弓則以左午屈韞執拊 註韞弓衣

延喜式 兵庫式

弓袋料紫表緋裡帛各一條

各長一丈一尺三寸 廣八寸

本朝軍器考 弓袋ノ事 ステニ延喜式ニ見エタリ

倭名抄ニモ説文并ニ唐式ヲ引テ此物ヲ載タ
リサレト異朝ニテ叢ト云モノ我朝ノ制ニ同シ
カラス三禮圖六經圖毛詩圖等ニ見エタリ
我朝ニシテ古ハ武士ノ夏アル暇ニ必弓袋指
テ具シケリ年中行事圖ニ檢非違使下部
ホ各其主ノ胃着テ袋ニセシ弓氏捧ケレ
見エテ其 余後三年合戰圖西行法師卷物ト
モニ此儀ミエタリ又畠山二郎重忠白旗白弓
袋ヲサケテ前兵衛佐殿ノ御陣ニ参リ
シナトイフ事モミエタリ

源平盛
衰記

物鎌倉殿上洛之時ヨリハシマレリ又袋ニスハ

キ弓殊ニ大事ノ物ナリナト申傳 ハ張ノ中之事

弓トイフヲ 誤レルニ似タリ建久六年ノ夏入洛ノ日

御弓袋指一騎具セラレシ由東鑑ニシルセル十

トヲ見テツタヘ誤レルナルヘシ弓袋ノ式

モ家々ニ傳フル故實同シカラス尤今ハ大

ヤウ水色ニ紋ヲ繪カクニヤ古ニハ其色定

マルニモアラス又源氏等ヲ催促シテ平家ヲ亡シ

奉ラントテ白旗 白弓袋ニ成リ返レルト云

夏源平盛衰記ニハ見エシソノカニ源平兩

氏ニ屬セシ武士ノ旗弓袋コトキモ各兩

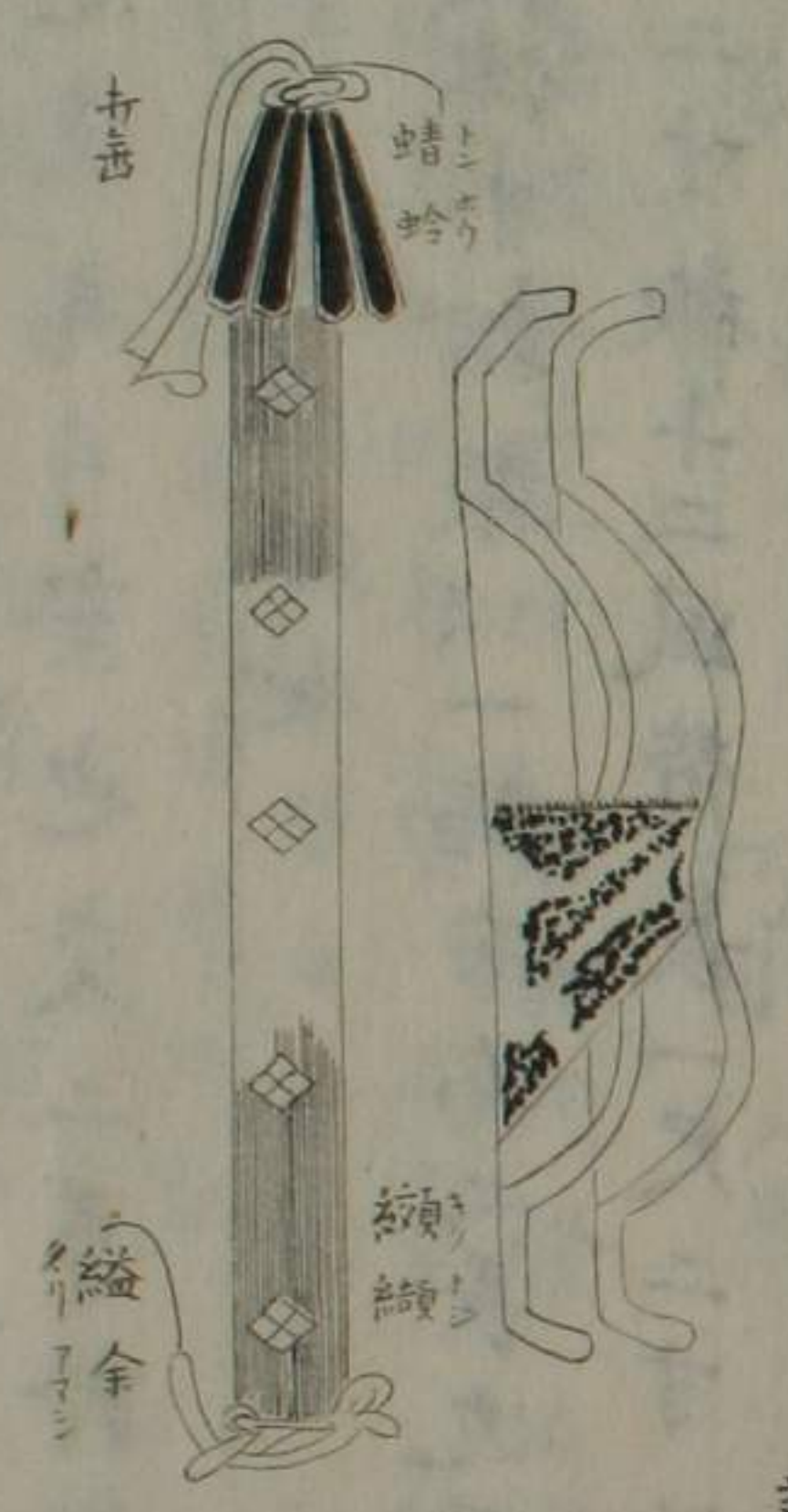
宛用エル取ノ色ニシタカヒシニ源氏ステ
 ニ滅平家サカフルニ及テハ國々ノ武
 士等コト々ク赤色ヲ用ヒシニ源氏又兵ヲ
 起スニ及テハ皆白色ニナリ返レルニソサ
 レハ弓袋ノ色定マレルニハアラス
 伊勢下総入道宗五記 一笠袋拵ヤウー 裝束
 革ハ菖蒲革 コメシナルヘシ革一タケヲ
 ニニ折テ穴ヲアタタカナタヘアケトヲ
 スヘシ鞠 取革ノコトシ弓袋裝束
 同前

源平盛衰記白布五十端取出シテ藏人カ前ニ積置テ大納

言云ケルハ日比談議申侍ツル事大將軍ニハ一向奉頼具弓
 袋ノ料ニ進スル也

和漢三才圖繪

漢



鞆
 帳音

ユミフクロ

和名由義
 布久呂

三才圖會卷第二十一 兵器部

以虎皮為弓室也交二弓於囊中也

說文云 鞬弓衣也

▲按相傳本朝鞬以一幅布為之長九尺拮余六寸打垂一尺二寸襖十二風帶長一尺二寸救四共表黑革裏赤皮纈纈黑革也紐革一寸有家傳異同不枚舉

記者大概

文安御即位調進圖

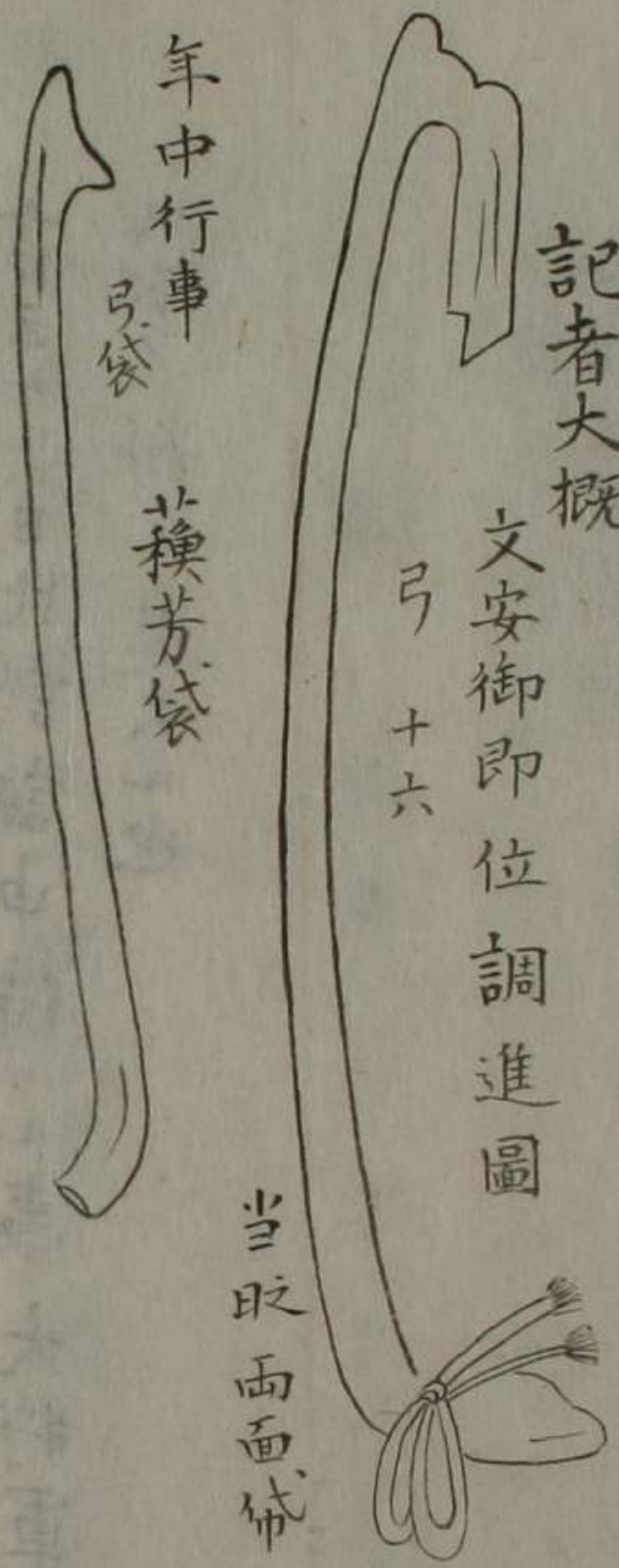
弓十六

当取兩面備

年中行事

弓袋

其種芳袋



和琴袋

註進御物目錄事

人車記仁安三十二

和琴二面各納糾地唐錦袋

在臺赤地錦面頭文紗覆九緒志部總赤地唐錦

面地鋪

拾茲抄上末目錄二 樂器部第三十五 和琴

字多

入寬 褐袋

朽目 入同袋

玉葉嘉禎三二十一 右衛門督公雅指笏取和琴

入錦袋先例或入袋不入袋 勘先例之處天永二年知豆院殿奉賀白川院六十御賀日也獻和琴入錦袋之由見日記

岷江入楚 初音 御コト、毛ノウルハシキ

フリロトモシテ 河

— 箏袋

幅 錦二

和琴

箏如

又云 和琴ノ袋ハ箏ニヲナシ或説ニ和琴ノ袋ニ唐錦ノ用ヘカラス我國ヨリ出来タル 罽十ル故トイヘリ

淺深秘抄 和琴袋事

一 和琴ハ此國ノ物ニ仍袋亦モ又頭モ押ト不用唐錦只如西面ヲ用也 垂有此説強用唐錦有何事

三中口傳

和琴袋

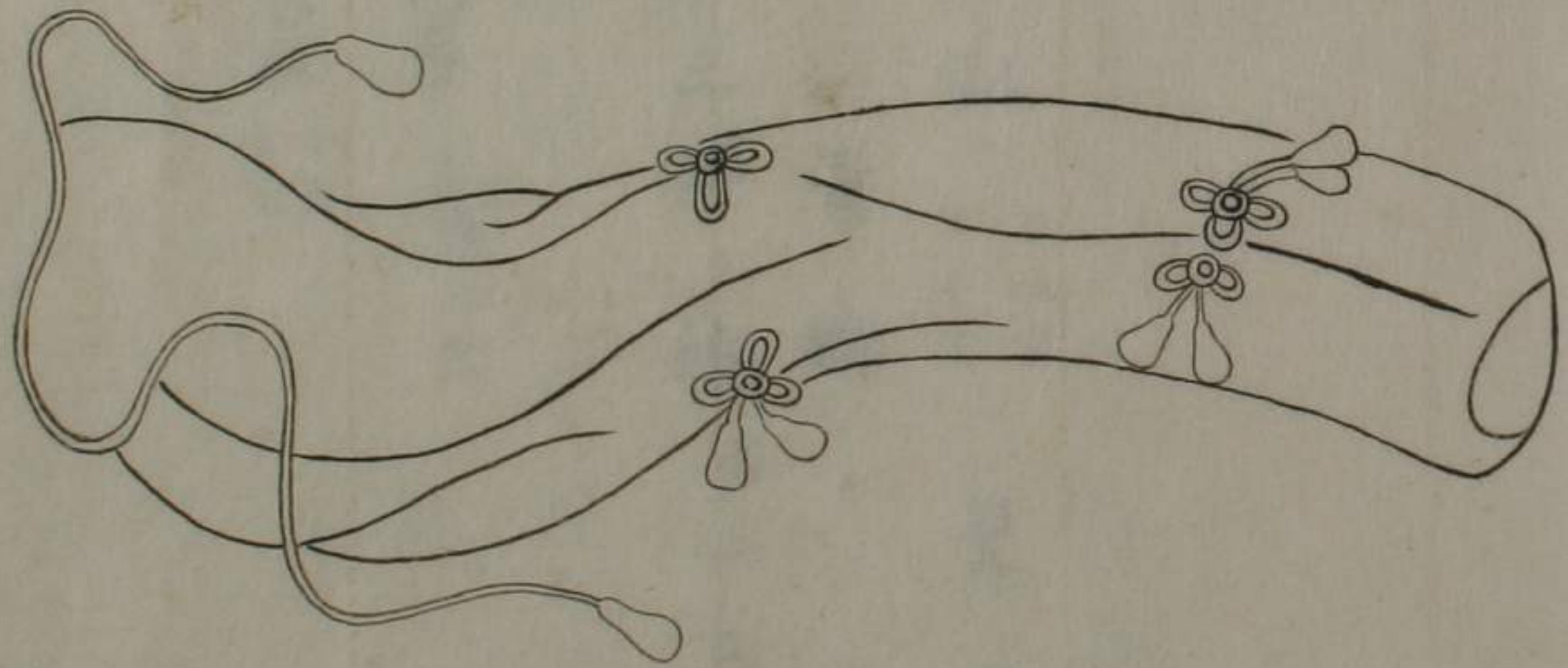
一方ニ折及ヲ付紐定

事也 惣不限和琴如弓袋以組結之不打任植也

寶石類書

松永彈正室琴袋ノ圖

琴袋赤地綿裏淺黃綾深紅級縫付着上莒黑塗蒔繪紋取



侍取簡袋

康富記文治五七十

一侍取簡事

白木

長五尺三寸五分

弘

上八寸
下七寸

厚六分

同袋 兩面裏

黃 絹

長六尺三寸五分

二幅

緒

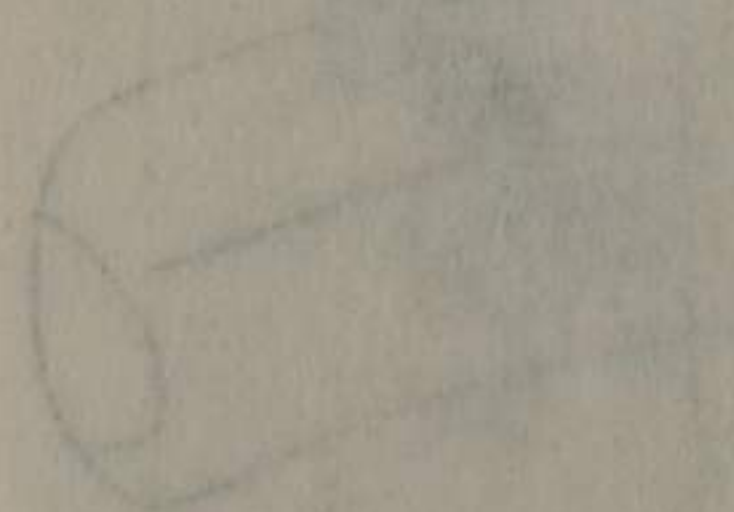
同兩面

諮問抄 丞相初仕之間事

註頭之間

一宿申簡 黑漆 并日給竹間 白木

布袋



弦袋

平家物語 殿上ヤミウチノ更

又忠盛ノ郎等 | ウスアヲノ狩衣ノ下ニモ

ヨキヲトシノハラ巻ヲキツル袋付タル太カハ

キハサニテ殿上ノ小庭ニカシコマツテソ候ケリ

太平記三十五青磁左衛門 藤ト云者アリ |

木太刀ヲ持セケルソ叙爵ノ後ハ此太カニ弦袋ヲ

付タリケル加様ニ我身ノ為ニハ聊モ過差ナル

更セスシテ |

軍防令凡兵士ハ | 弓絃袋 一口 |

和名抄 弓 劔具 弦袋

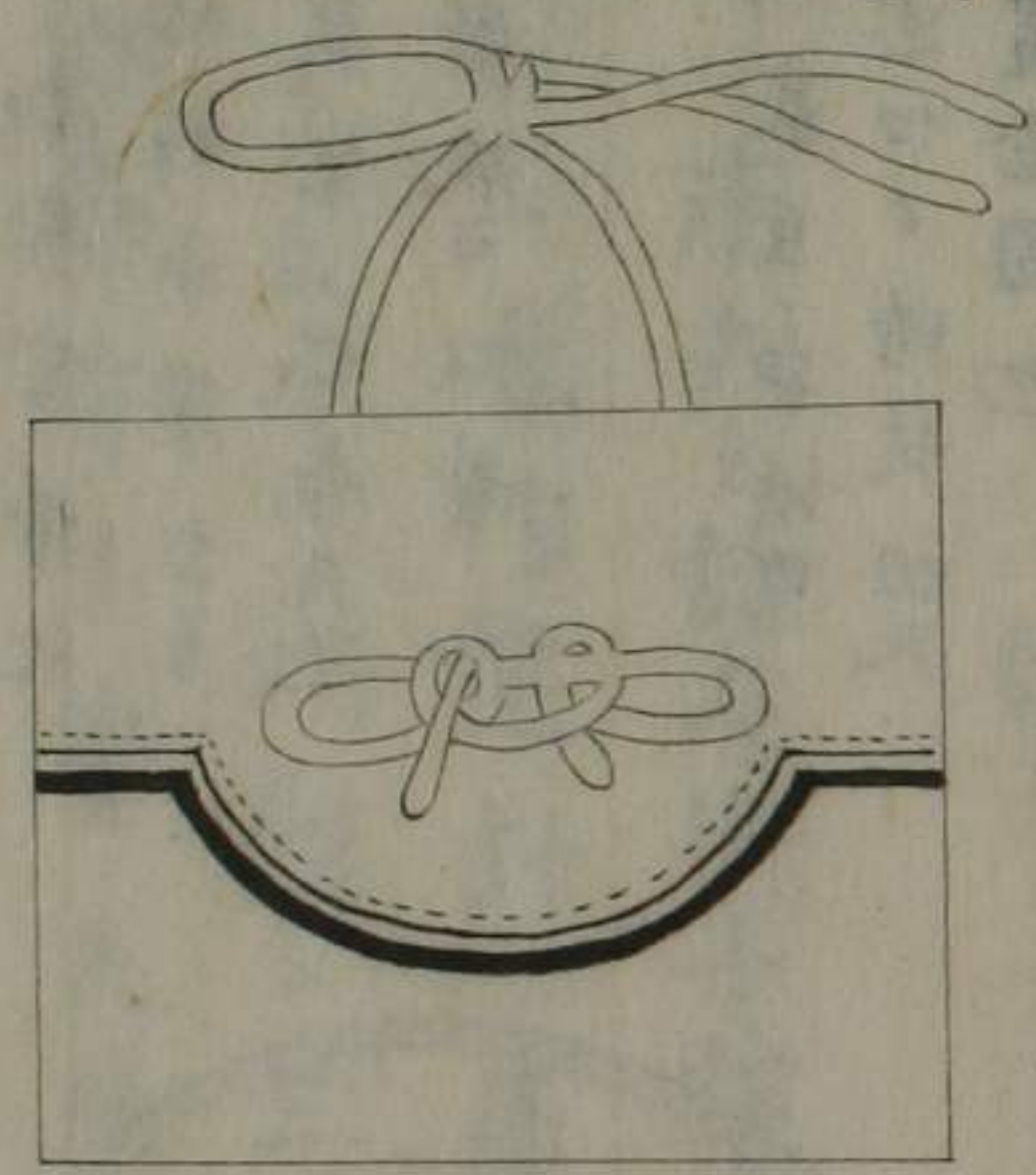
唐式ニ緒府衛士
由美都流
布久路

古今著聞集第六 源義光ハ——いと備中
 下らんも〜〜と申ゆる〜〜なりけれハ兵
 衛府と辭——て歸る 弦袋とかけて馳
 下りて参り

布衣記 一太刀 扇事 太刀ハ 衛府ノ太刀也
 五位之時 平鞘ヲ用 弦袋ヲ十ス

東鑑 治承四十二 永保三年九月 曾祖父陸奥
 守——于時左兵衛尉義光候 京都傳聞此事
 辭朝廷警衛之當官 鮮置 弦袋 放殿上 偕下
 向奥州

弦袋ハ 箆ノ腰緒ニ付納ルニ
 上古ハ 腰緒ニ付納ルノタカカシラヲ
 結ヒ 弦袋ハ 竹ノサヤニ入ルナリ
 木ニテ車ノ如ク廻ルヤウニシテ 腰
 緒ノマツリヲ以テ納メシメナリ 中
 古ヨリ 腰草出未ソレニ 弦袋ヲ付
 ルナリ 兼鑑ニ見ユシ サケ用ルハ 弦
 袋ヲヨリ 入テ直ニ 腰ヨリサシ
 出シ 張ナリ 故実アレハ 口傳ヲ受
 へシ 又 弦袋ヲ太刀ノ足間ヨリサケテ
 腰指ニテ 留ルナリ



弦袋圖
 和名由 兼部 苗布 久路 日記ニ
 上古太刀足ヲ付タル物ニ 今不用



革又切ニテモスル
 指渡五寸二分

公敬々勅云
 是因紀州宇治田平左門
 忠々ヨリ 借受 祖父公兼々
 寫置 給因ニ
 当世弦袋圖是ニ可秘云々

燧袋 弦袋 左大臣 高明公ヨリ 長兵衛尉長谷部信連傳

弦袋

弦袋者 衛府官着之
左右兵衛尉赤革左右
衛門尉藍革也并刀之
鞘ニ拔入帶取ヲ以着之

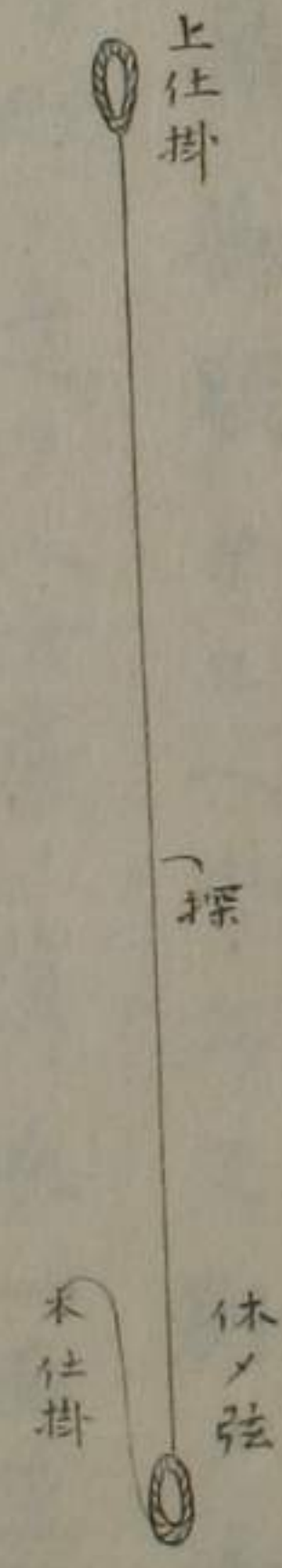
公敬々案
是圖紀州家臣宇治田
平左衛門忠々借受祖父
公麗卿寫置給圖也



和漢三才圖會



弦音 弦袋 和名由美都流 布久路



弦袋 唐式之諸府衛士弦袋者是也

盛衰記十三唯信連計ヲ居廻ノ云中畧 己レ等ニ物教

ハントテ云ケル我朝ニ三種ノ神器ノ内ニ内侍所
ト申御事有リ昔天照大神ノ御時百玉ノ末ノ
帝マテモ我御形ヲ見マイラセントテ移留ノ
御坐ス御鏡也サテ弦袋ト云ハ又ウシロノ内
侍所ノ御顔ヲカタトレリ其故ニ百官悉ク朝ニ

魚奉召仕 衛府ノ官ハ淺キ位ナレハ地下ニシテ致
奉公直人ニ紛ヘキニ依テ内侍所ノ御顔ヲ學テ
弦袋ヲ賜テ左右ノ兵衛府赤皮左右ノ衛門府
藍皮是ヲ以侍ノ品ヲ知國王ノ御宝ナレハ可道
非分ノ難笠注シナレサレハコソ官ヲモ一ツケカ
スハ有難朝恩ニテアレ繩ヲ付ケストテモ信連
誤リナケレハ參テ申ヘシト云々

上差袋

公敬按上差シタル帑 彼是所見アリ
仍後ニ奉又因

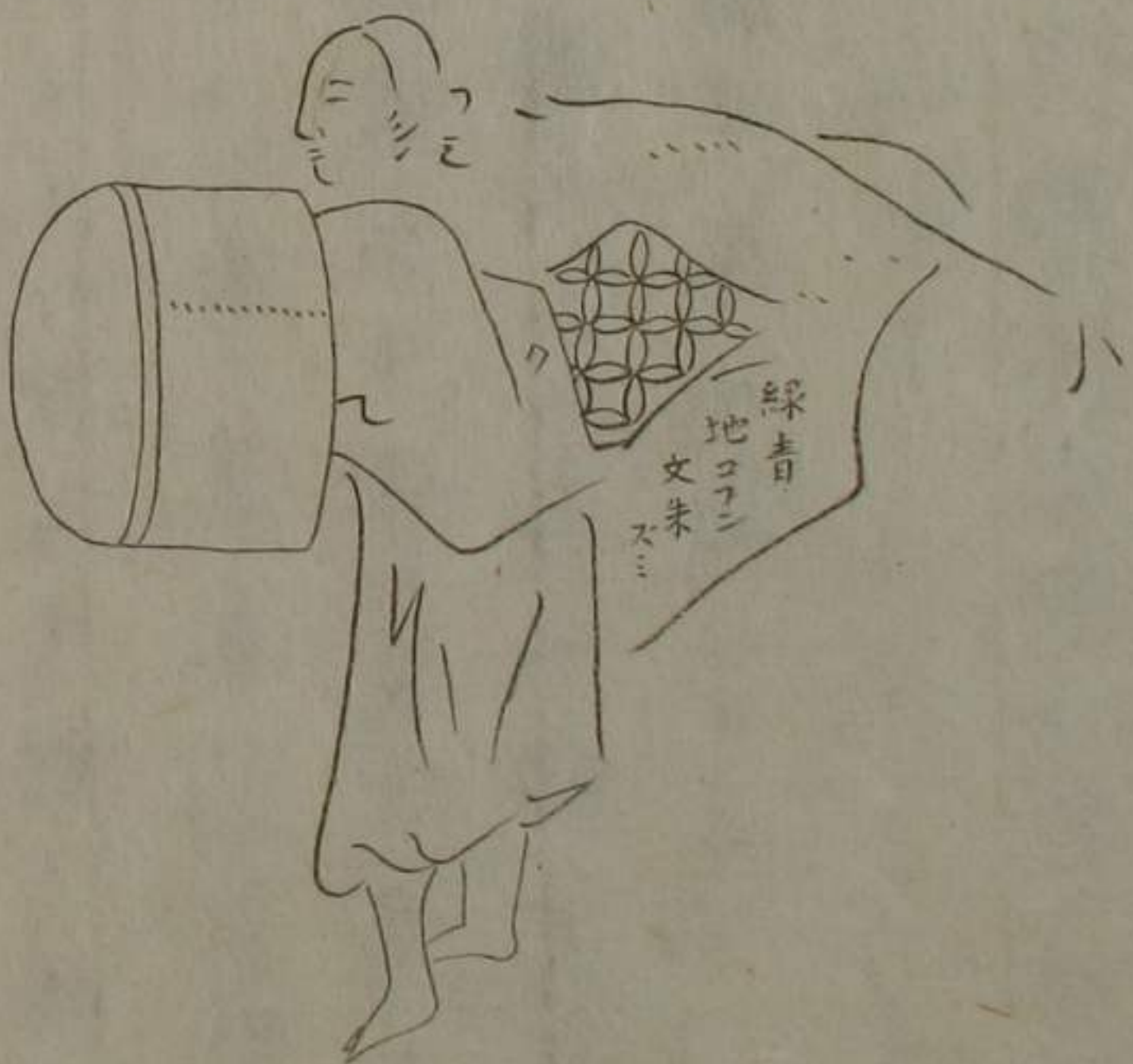
源平盛衰記十三卷

熊野新宮軍事

信連ハ蒙仰痛御駭アルヘカラス別ノ御事
候ハシトテ局町ニ走リ入女房ノ薄衣一面笠取出メ
宮ヲ女房ノ形ニ仕立進セテ佐大夫宗信ニケシカ
ル直衣小袴キセ奉リ黒丸ト云御中間ニ表差シ
シタル袋持セテ 御取ヲ出シ進スル云々

伴大納言燒忘天門繪卷物

上差シタル袋
太褌画卷ニアリ
出宿物袋処可
参考



屠蘇袋

江次才才一十二月晦日以屠蘇漬御井以緋縮袋
盛件御井在豊樂院西典藥寮與以日中可
懸沈井中勿令至泥

柱袋

伊勢神宝圖

鷄尾御琴一面塗朱漆裡黑漆長八尺八寸弘一尺一寸 末弘一尺八寸經三寸二分厚三寸三分足黑漆絲懸金銅本末有星二十六柱十三以黑枳造之納赤地唐錦小袋裏緋縮弦有十三筋有赤地唐錦覆一條程緋縮

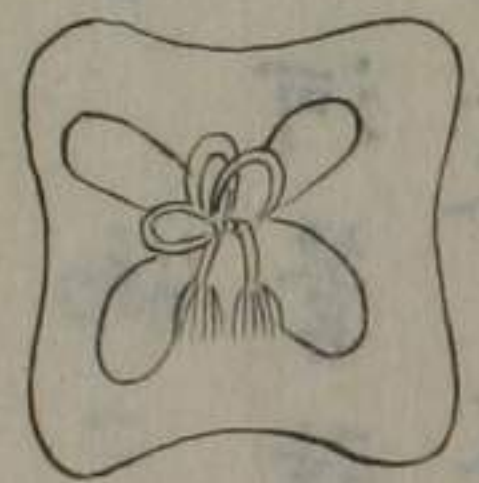
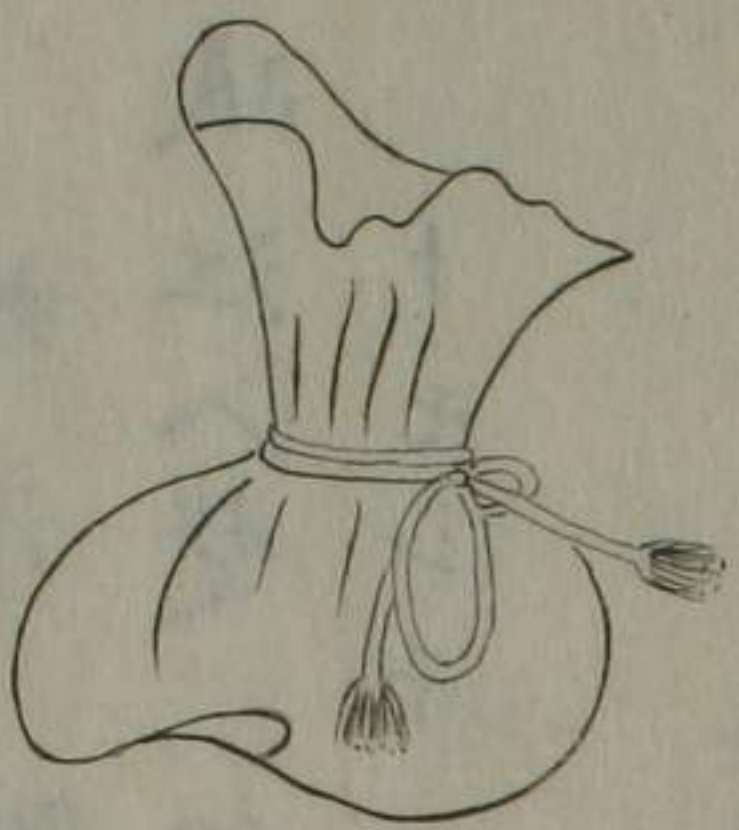
長秋記大治五年九月

取要

琴柱裏薄樣挾絃而臨期

博陸召資信返給琴仰云立柱可進也云

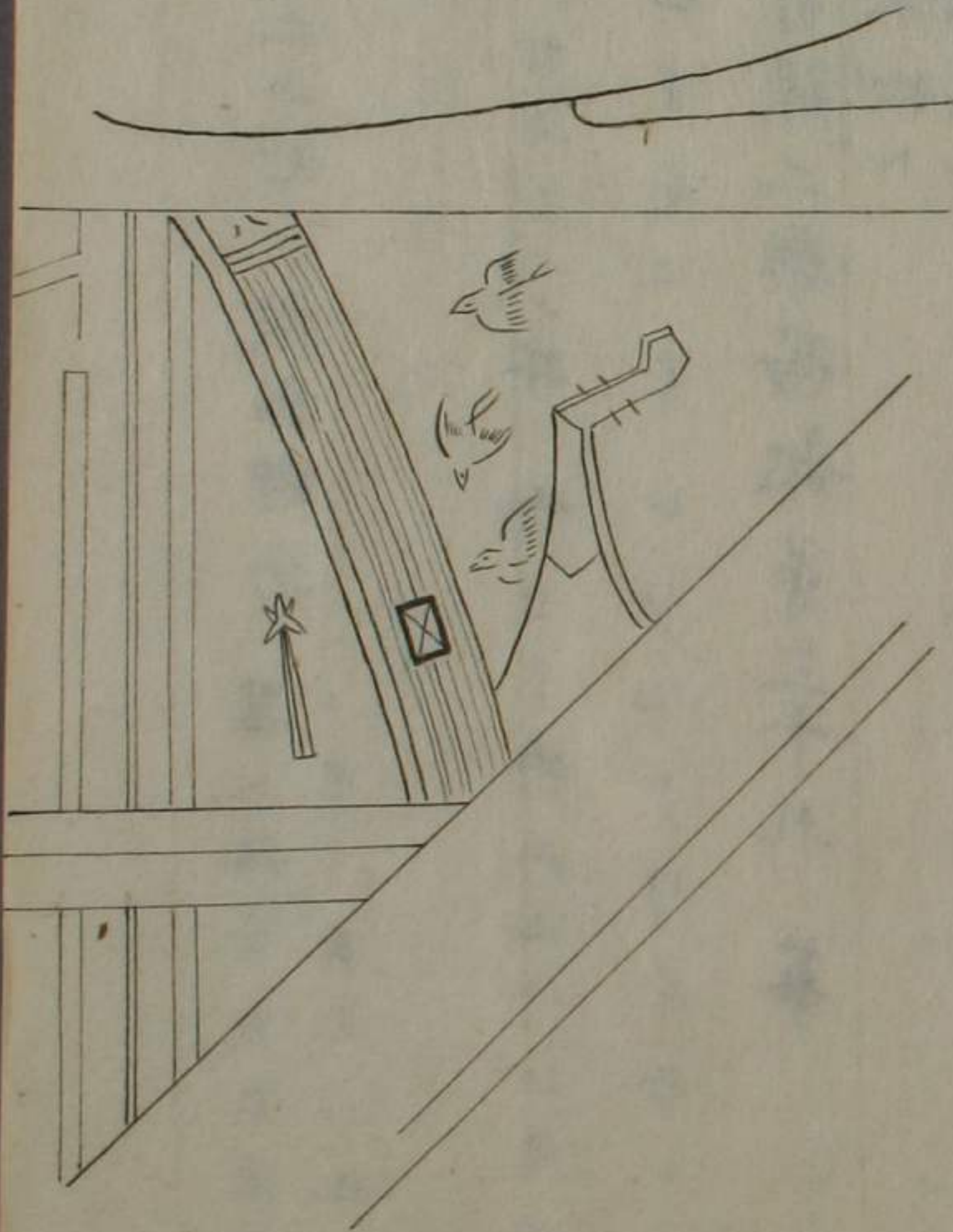
伊勢神宝圖



柱裏

石山寺錄

記所圖



箏袋

玉葉 嘉禎三二十七

被出贈物

箏入錦袋 左右端引合
テ裏ニ其上以紐三所

也 結之是三說

源氏物語

ハカナヒシ井 御コト共ウルハシキコン

十ノフク口トモニイレタルトリイテ、

拾苾抄上末目錄二樂器部第三十五 箏

蟬清

木繪入
錦袋

岷江入楚

初音

御コト、モノウルハシキ袋

トモシテ

河管弦ノ器皆袋ニ納ル本儀也

上谷 箏袋

幅 錦ニ

陽龍記 寛元四年二月十六日一院初御幸 畧次中院

大納言

女院司
執事也

持叅箏

納青地
錦袋

笙袋

岷江入楚

初音

御コトモノウルハシキ袋トモシテ

河管絃ノ器皆袋ニ納ル本儀也

琵琶袋

面錦或赤色浮線綾裡唐綾

笙笛袋

大

也
同前

實房公仁安三四十八日記 云ハ

左府生恭兼任

候用

付笙横笛各相具袋

宿物袋

名目抄

日給簡

宿居物語

源氏物語

ゆらふらふり馬車りきりきりてものお

ものゆらゆらとゆらゆらと

經衡集

越中守ゆらゆらと宇治殿まである

こころよよとゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらと

ろよいねてかゆりゆらゆらとゆらゆらと四月十日

かり

友よふかきゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらと

返

ゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらとゆらゆらと

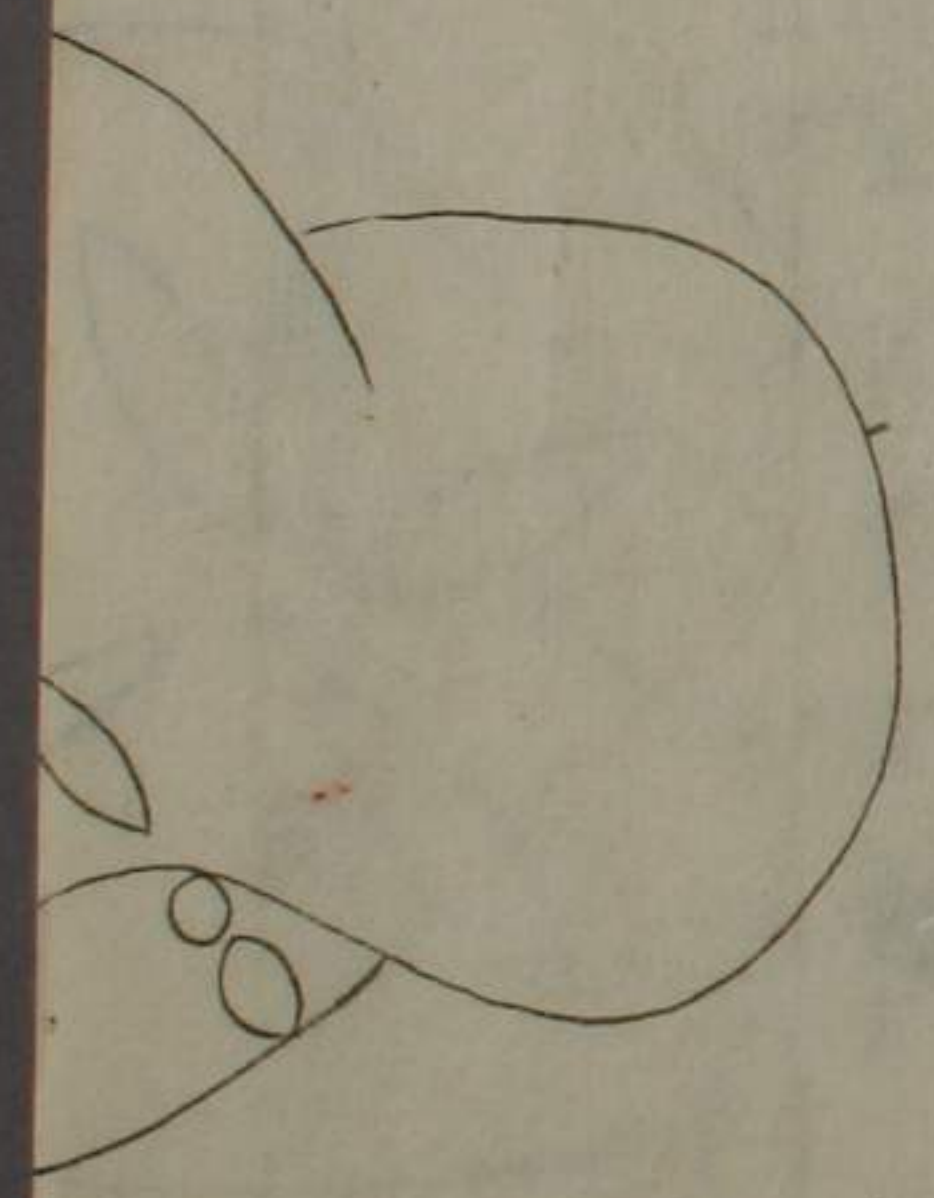
藻塩草卷第十七人事雜物并調皮部度四十四袋

とのわねの幣 上畧 源氏よさむいよとのわねの袋
やま みるをとり宿社の袋をいふて是共ちまや
此さむいよの殿上よそ二條院の殿上や宿直を
る人よむすれあさむいよんとそよのわねの袋
とさむいよの殿上よそ二條院の殿上や宿直を
は也

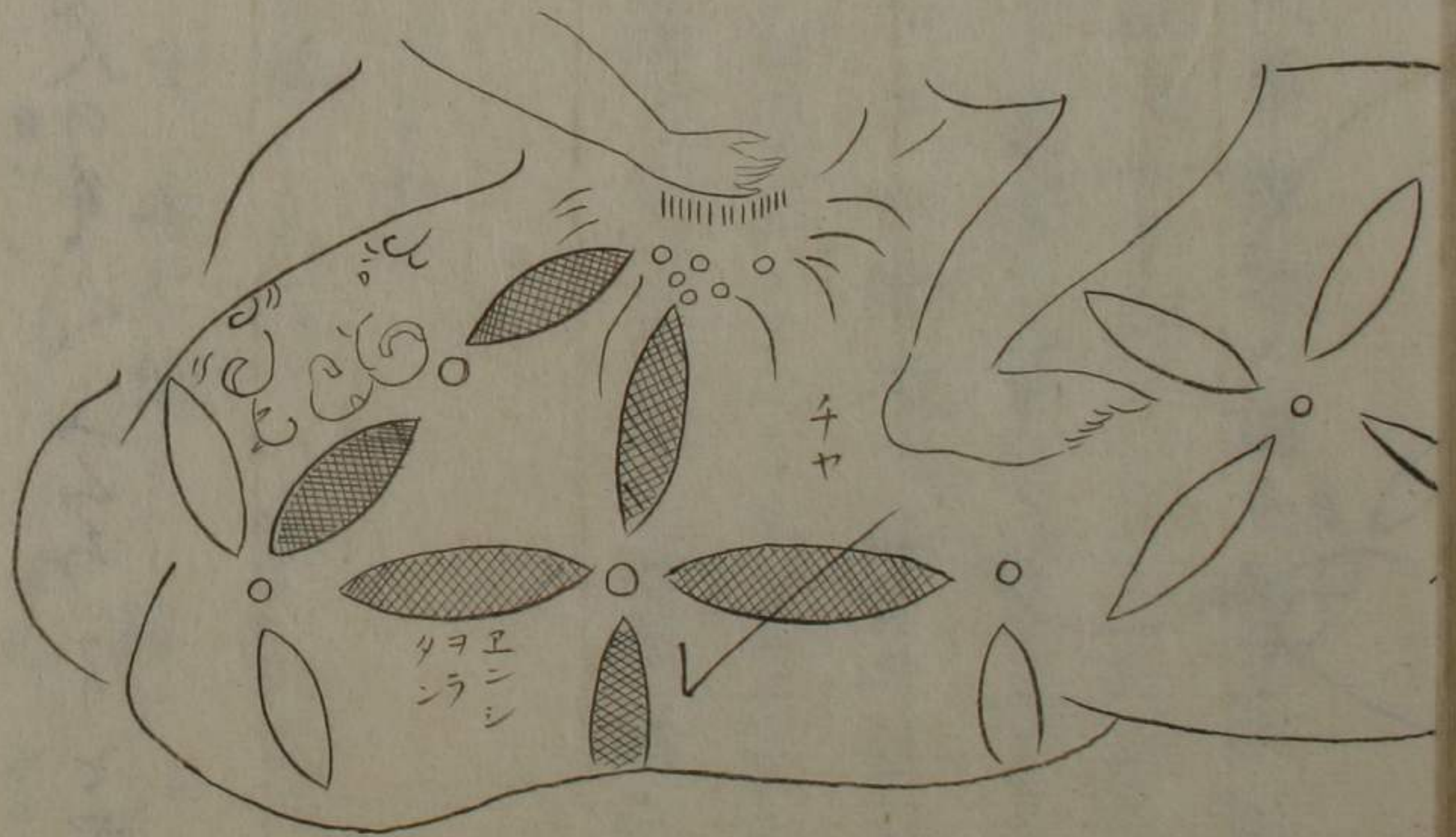
まい人のさむいよのこや
ゆゑ人のさむいよのこや
まよこれ夜 ち ちちまいりて ちを殿よそ結りよき
あくらをらすさむいよのこや か いよをせすおひ

そねアさんふんく人のぬくふくらいりやれ

公敬々業宿物袋
有両説一説者宿
衣ノ袋と云一
説者寢具ヲ納
ル袋ト云是非
可訪先達此圖
一説ニツヒテ画干此



大茶画卷



笠袋

公清公記觀志元正十六 笠持

之由リ竹知之処禪閣答ニ可為單之由分明也仍今度
一重也持長張 筵白布ニテ 十文字ニ 結之ノ笠柄云々

注口傳用裝束集

法親正

朱傘袋 飴草紫草十二枚付也

攝家并清花門跡

袋草同上 院家於法印大概同門跡法印之

朱傘袋

錦草 梅子草 藍草 菖蒲草
草——以上十二枚

伊勢下総入道宗五記

一笠袋梅ヤウ惣シテ長廿八笠ニヨルハシ

上ノ又ヒ残ス分一尺二寸装束草ノ長サ
 同前 草ノ先ヲケンサキニ切シ 布ハ笠ニヨリ
 テ三幅又ハ二幅半ニモ有ヘシ少シキホソカルヘシ
 装束草ハ菖蒲草コメウシナルヘシ草一タケヲニ
 ニヨリテアナヲアナタコナタヘアケテトフ
 スヘシ鞠ノ取草ノコトシ弓袋装束同前マタ
 菖蒲草ナケレハ黒ノ草モ不苦但畧儀也マタ
 下ノ又ヒ残ス分は一尺二寸トイヘトモソレハ
 ミシカシ一尺五寸程ニスヘシ袋ノ方ノ下ヲ
 折カヘシテ又フ也是ハ自然公家方ニハ沓ヲ
 取入武家ニハ草履此十カ一可入タメナリ

袋ノ一幅ハ下ヲ切ニ幅ハ上ヘ折カヘシテ又フヘシカ且
 シタル布ノハシヲ一尺ハカリ又ヒアハスナリ大カタ
 繪圖ニアラハス又ヒヤウフセ又ヒニ左ヘフスヘシ



公方様之家法中白夕コノリヲ可引武家モ御
ハレノ取ハ同前常ニ淺黄ニ染テ可用也裝束
ヲナシ猶口傳アリ馬ニノル時ハ鞍蓋ヲカケテ
モ夕セ候又云家ニ致ナト御晴ノ時ハ人夫夕テ
ホウシニ白キヒ夕レヲ着テ持候

布衣記 笠此奉 公家武家共以無替晴の時白袋

管 笠此奉

飾抄 笠此奉 頼平々曰囊当家記無裏頭草弦
非大滑用小草草之由前關白 近衛 取語也

笛袋

岷江入楚 初音 御コト、モノウルハシキ袋トモシテ

河管 絃

琵琶袋

白綿或赤色浮
線綾裏唐綾

箏袋

錦二
幅

和琴

如箏

笙笛袋

大躰同
前也

實房公仁安三十八日記

左府生泰兼任 候府

付笙横笛各相具袋

鉢袋

釋氏要覽中

鉢袋

律云聽作鉢袋
青色今呼鉢袋也

打カ一袋

臂鷹記

一打把飼囊ノ事 苧繩ヲホソク
シテ長七寸ニツ、ヲ折ニシテ五トヨリ編ナリ
ヨリ返メノツキへ繩ヲ通シテク、リツメテ
キハニテマムスヒニシテ其繩ノアマリヲ腰ニ
付ル也 柿漆ニス一シ

鷹三百首

物かきやきしにしつる犬やそのおかしげ
うら柄もや。犬の毛をかしき毛、飯ふきあ
きやせ。—— 柄をうらかひと云也。うら
ちかひのなしく、物教やアツるもの

ち。ーやぬき穂と けうて 乞と 犬かひの
 井くい袋と云也

武用辨畧 襠袋或助飼ウチカヒニ作又助餌ウチカヒ共鷹歌ノ註ニ

犬鳥ヲ啗立レハ飯ニ米糠ヌカヲ交テ一宛飼事也之ヲ助飼

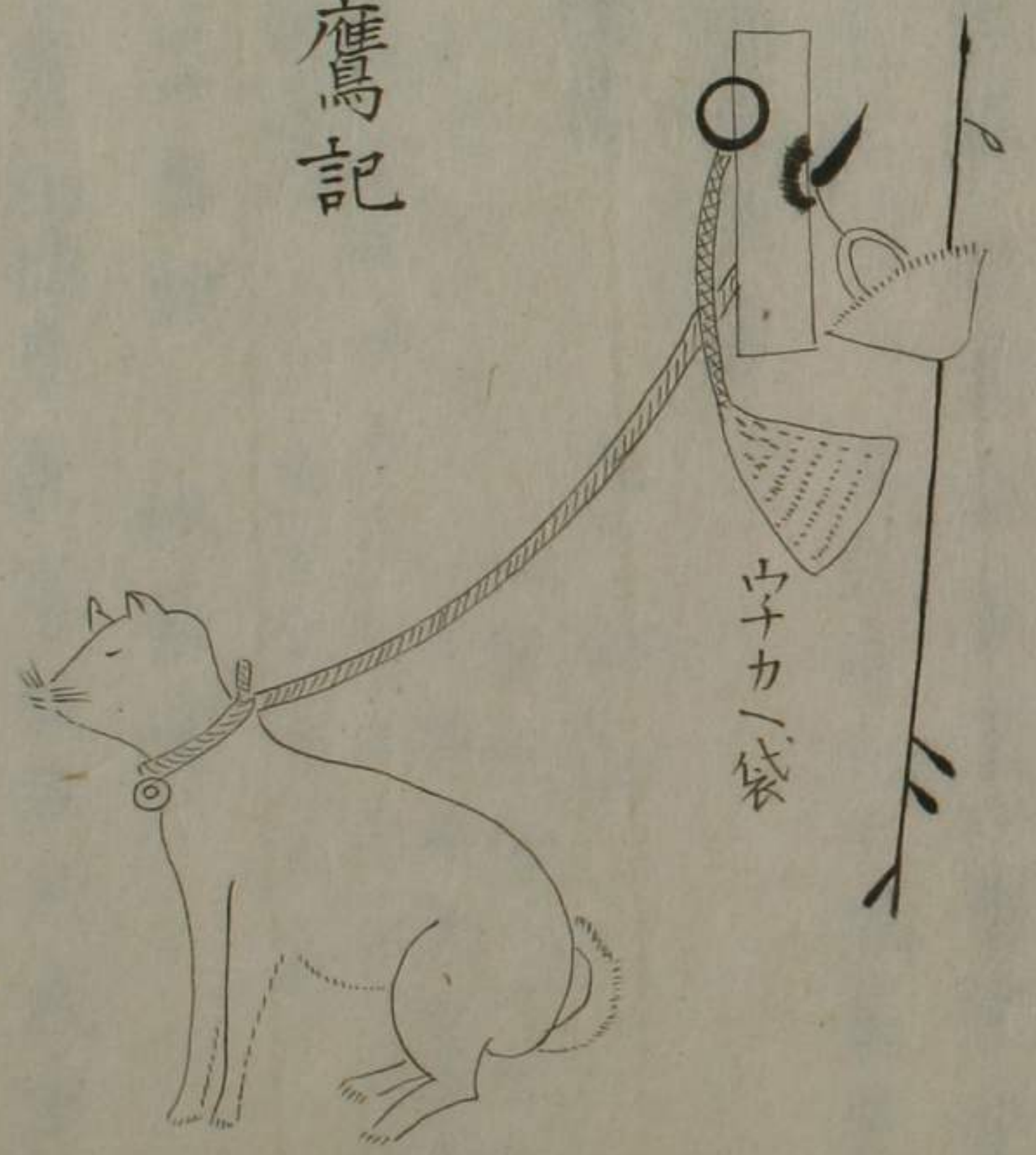
ト云菓ノ拔穂ヲ以細繩ニシ長サ二寸ニ葛篋織ニシテ五

通ニ編ヘシ口傳アリ組編繩ノ餘ヲ腰付ニスル也自然布

ナレハ柿ニ染ル也或昏ニ云編タルヲ唯助餌ト計云シ布

ナラバ袋ト云ニ作意ナル歟今人呼テ腰袋ト云

或鷹記



ウチカヒ袋

茱萸袋

拾菽抄上本目錄一歲時部第一

九月九日費長房縫囊盛茱萸以繫臂登山飲

菊花酒以免灾厄世凡記漢武帝此日佩茱萸食餅

飲菊花酒令人長壽同上

北山抄 重陽宴 九日節會

所司裝束如正月七日儀 但當御帳之母屋左右柱

柱本一尺余 件以金瓶 挿菊花 置黑漆机以組結着各

置茱萸柱下庇迎 殘菊宴 置茱萸 琅邪代醉編卷二十事類 佩茱萸

重陽佩茱萸囊相傳費長房故事然武帝宮人

賈蘭佩茱萸食飲菊花酒則西漢時已有此俗不

自長房始也見西京雜記

列仙傳費長房

桓景嘗學于長房一日謂景曰九月

九日汝家有大災可作絳囊盛茱萸繫臂上登高山飲菊花酒可消景如其言舉家登山夕還見牛羊鷄犬皆暴死焉

春記長房四十五今日系昭女官獻藥玉縷藏人取之

結付御座柱東西但撒茱萸袋

世諺問答 九月

費長房ト云仙人シヨナシノ桓景ニカタリテ曰九月九日ニ汝カ家ニワサハヒアルヘシ茱萸ノ袋ヲ又ヒテヒキニカケ山ニ登テ菊酒ヲノマハ此ワサハヒケス

ヘシトイヒケレハソノ日ニイタリテヲシノコトクセシカハソノミツ、カナクシテ家中ノ鷄犬羊コト、クシ、タリカヤウノクメシニヨリテヤラシムカシ大ヤケニテ重陽ノ宴トテシユエノフクロヲ御誕ニヨリテ群臣ニ菊ノ酒ヲタマハリシトソウケタマハル

典藥式九月九日吳茱萸二十把付藥司供之

中務式藥司畏吳茱萸料緋帛一疋緋糸一絢

皇太后宮料
又同

小野宮年中行事

九月九日節会事

圖昏司獻菊二瓶

有臺

典藥寮茶菓四囊

年中行事

九月九日

典藥寮獻茶菓事

早且藏人撤昼御座間母屋南北柱藥玉結付
其跡次到南殿撤几帳南西柱藥玉同結付其跡

西宮記九月勅例

更部王記延長四年九月九日裝束如正月七日但
当御帳前之母屋左右柱囊盛茶菓向外
着之

四季物語九月

クミノミハ唐ニテモ藥ノ御ニキニツカウ

マツルコトナルヲコ、ニモアルタメシニテ
ヲホクハヤマトノ漆ノ上ノ山ヨリ奉レルヲ
國ノ守ノ奏ニテ藥ノ司ヲモテ醫師シテ
夕テマツリ又此比ハ小一条御リヤウフシノ里
ヨリ夕テマツリ給補陀落寺ヨリ夕テマツル
又和氣ナトニモマメニキ事



茱萸袋

紅生ノ平絹

公敬々案云

以下三圖不記出所且
 文菊奈近誤之而住
 当家傳來倫參考於
 可求佳圖者也

土佐家取持圖



此因可註茶菓之真ノ具茶菓也
不交菊袋ノ躰畏ニ近シ



公事根元 九月九日書司供菊花支

御殿東
孫花

金谷云桓景隨費長房謂桓景日君家九月九日

當有大災登高作絳囊盛茱萸繫臂及桂茱

萸以挿頭折菊花沙酒祭京飲之攘此災果如言

藥司獻茱萸支

結付ニ御帳
東柱

同日記云折茱萸挿頭避惡氣而禦邪寒也

仙書云茱萸為辟邪。菊花為延壽客故假此物以

消濁ル一アリ

夢華錄云重陽都下賞菊酒家皆以菊花縛成

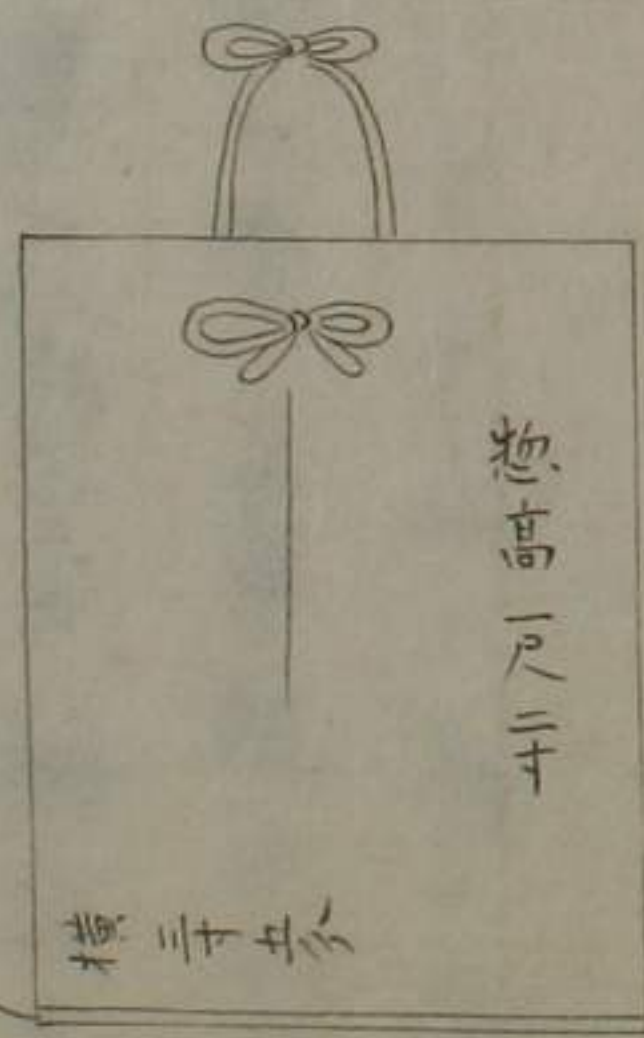
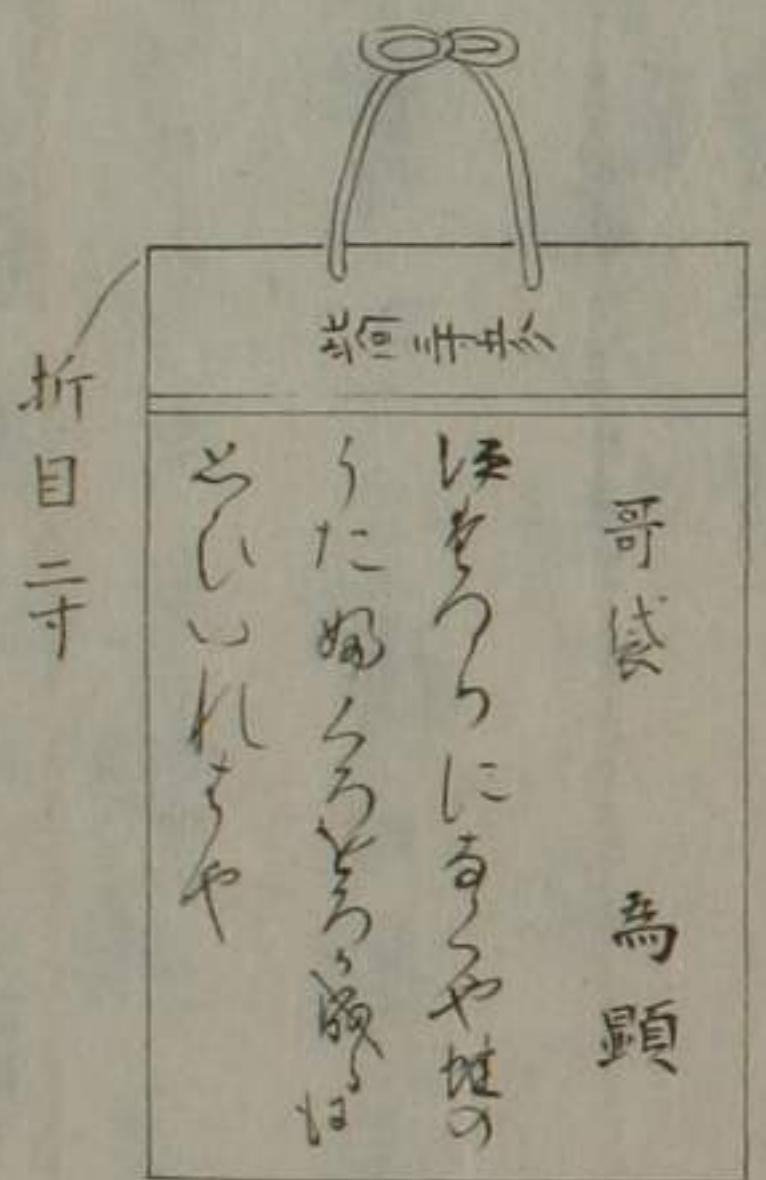
洞戶

歌袋

為頭

深き歌袋よなりや 蛙もくや多きくは
と名、ねるもよ 西のいしをきく

表裏



右紙大夕カ 紐白紅水引或ソカケ

但シ白黒ノ水引ヲ白クレナ井ト云
或ハ縮ニテモ調候ニ

二分斗
ヨリ返ラ

歌袋トイフモノ三千ノク紙ニテコシラユルコ
ト本法ナリ 行成紙ニテ作ルハ故実ニアラ
ス 江記ニ匡房ノウタ袋 ヤマト錦ニテツ
クルトイフコトミエタリ 然レ共当眩ハイ
ツレモ大鷹ニテ捲ルフクロノウラニ

汗をぬくに

此古歌ヲ昏置ヘシ

帶袋

和名抄行旅具 勝

唐韻云勝

音騰和名
於此不久呂

囊之可帶也

伯家神道流傳

帶袋之支

帶袋ハ糶ヲ納ルノ具ニシテ士卒ノ為ニ備フ
甲ノ胴尻ヲ請テ腰底ニ帶フ貞觀十二年
三月十六日ニ小野朝臣春風奏メ調布ヲ以
テ帶袋千枚ヲ造リ急速ノ備トス是ヨリ
始テ軍旅急速ノ備ニ乾飯ヲ袋ニ納メテ
士卒ノ腰ニ帶ノ故ニ帶袋ト号ク圖ハ

別ニ有り

七宝袋

玉葉 兼元三五廿五

御産条云

七宝袋 白生。袋乾
口通丸結付

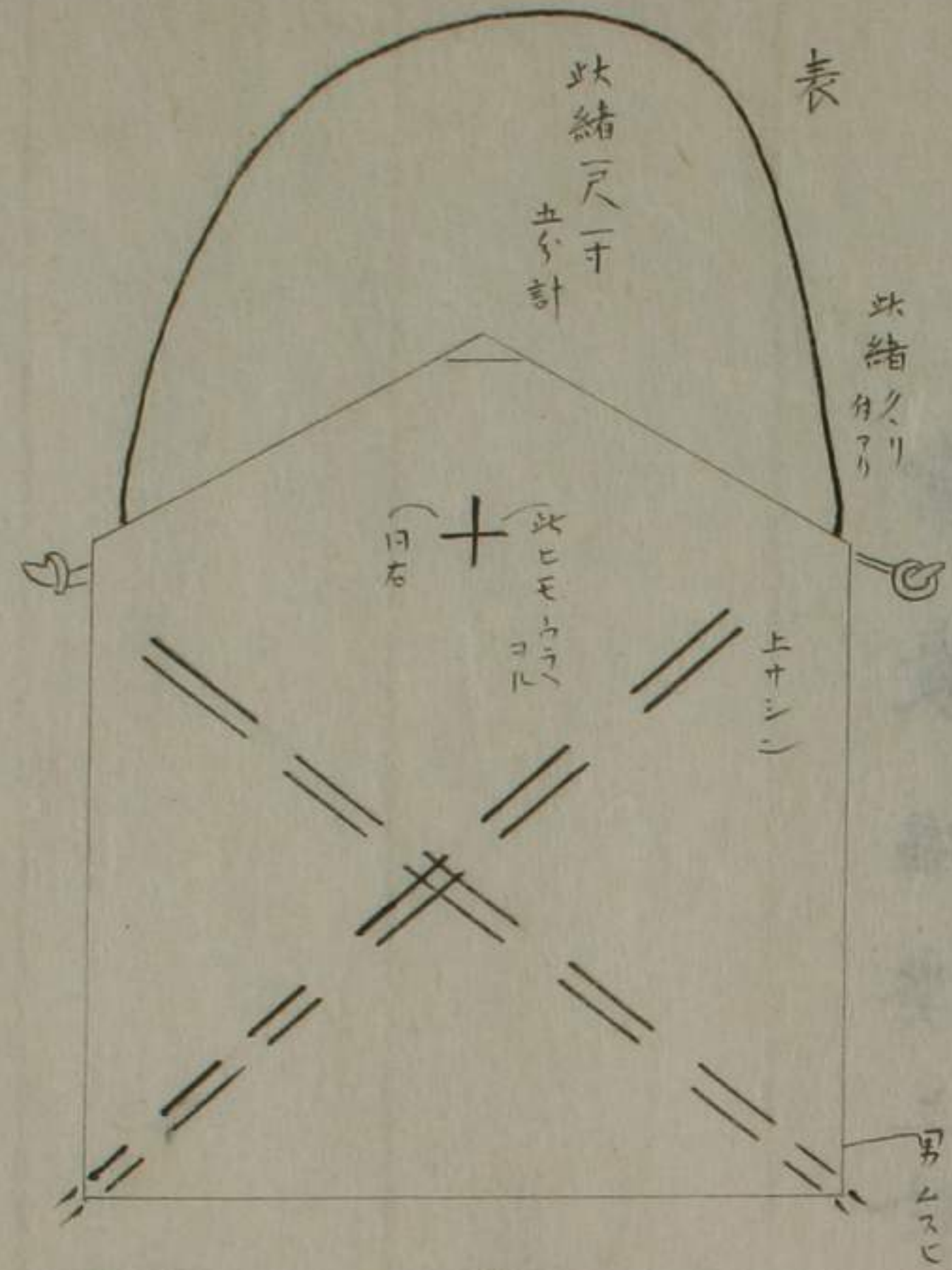
之金銀色、珠治
丁子麝香

花囊

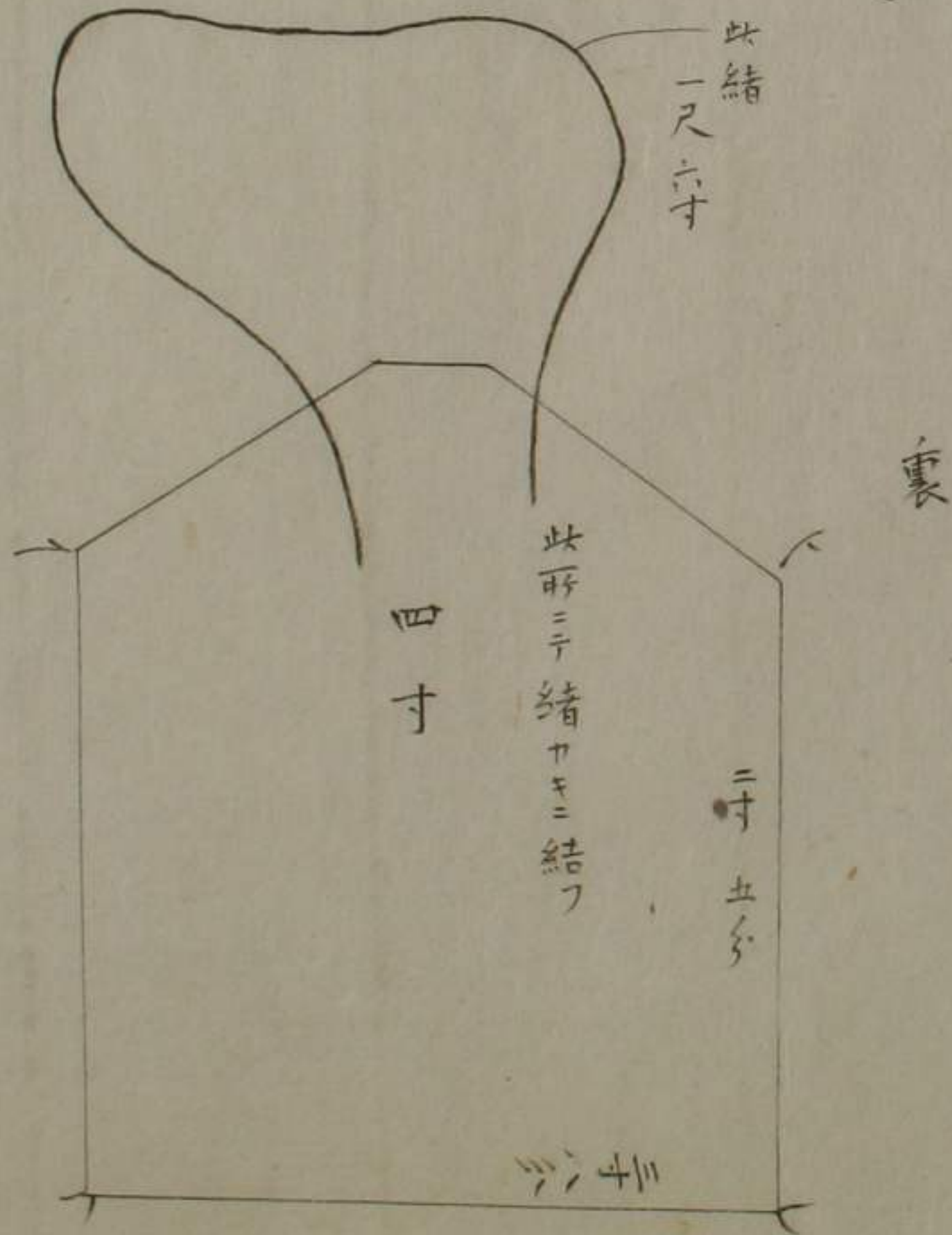
伊湯との上の記明志七年二月廿四日

のきより日かん中百万屋のさゆん
あつちやらう室町
殿よりさゆれ
あつちやらう室町

藤細袋



表中ノ方此如シ



索囊輻湊上終

